

VOICE

土田直樹さん（株式会社レジナ）

文：鈴木愛 写真：吉村鮎

電気機器に触れ続けると、身体に電場が帯電する。LEDランプが光ることで帯電を可視化した実験



「見えないものを伝えるのは難しい。でも見えないことの方が僕は好きかな」。その笑顔に磁石のように惹きつけられた。

電磁波の影響がない安心安全な環境づくりを目指す、株式会社レジナの土田直樹さん。「商社マン」に憧れて、大学在学中に1年間アメリカへ語学留学。大学卒業後は、大手商社に入社し、東京の家庭機器を取り扱う部署へ配属された。ここでは、電化製品・園芸・インテリアなど約7000ほどのアイテムがあり、卸業務を行っていた。

冬はホットカーペット、夏は扇風機など、季節ごとの家電製品の営業を行っていた。当時、「営業マン」は350人ほどいたが、幼い頃からの負けん気の強さも昂じて、努力の未営業トップの成績を挙げた。業績を残し、仕事の楽しさも感じていた。だが、なぜか心が満たされなかった。ヒット商品を多く送り出し、どれだけ売っても感動が薄い。自分でつくっているものではないから商品への愛着も湧かない。「ここにいるのは自分じゃなくてもいいんじゃないか?」。そんな思いが、心を埋めた。

ある時、ホットカーペットの近くでヒーターを使用したら、発火し火事になりかけたという事例が数回起きた。専門家によると「電磁波干渉」という電磁波の働きが原因だとわかった。どちらの家電も消費電力が大きく、使用する距離が近すぎると干渉を起こすというもの。これが電磁波を意識する最初のきっかけとなった。

4年間務めた会社を辞めた。設計事務所に就職し、新築マンションの営業に力を注いだ。一棟のマンションを売るために、2500人もの人に営業したこともある。

「きちんと伝えることが大切。絶対に諦めない気持ちとあの時の経験が今を支えている」と土田さんは話す。

「電磁波」のことは、あの発火事件以降ずっと心に残っていた。自分の納得のいくまで追求してみたいと思い、東京に戻り、2002年「レジナ」を設立した。

会社を立ち上げた当初は、パソコンをアース（電気や電磁波を地中などに逃がす）する機器を販売することが目的だった。機器を使うことにより、電磁波が発する身体への負担を軽減することができる。そして電気機器から発生す

る低周波電磁波を逃がす装置「エルマクリーン」を販売するようになった。

初めて自分で使った時の事を語る。「パソコンを毎日使うけど、肩こりと頭痛が酷かったんです。そこでパソコンのアースをとったら、なんだか画面を見るのが楽になった。曇りガラスにワイパーをかけたようなクリアになる感覚かな。10年近く悩んだ肩こりと頭痛が治りました」。目を輝かせて当時を振り返る姿に、感動の大きさが伝わってきた。

しかし、電磁波が身体に及ぼす影響について医学的には現在証明されていない。臨床を行うことが困難だからだ。「どうしたら電磁波を証明できるのか?」商社時代の友人からヒントをもらい、様々な電磁波測定器を海外から導入した。そして独学で電気工士の資格を取得し、自ら機器の電磁波測定を行ってデータを溜めていく日々が続いた。

すると、電気機器だけでなく家の床や壁からも電磁波が出ていることがわかった。建物の内部にはコンセントや照明に通じる屋内配線が通り、特に木造建築だと帯電を起こす。それが原因で電磁波が出る場合がある。コンクリートや鉄筋構造では電磁波の影響は少ないが、木



初代（左）から最新モデル（右）までのエルマクリーン。改良を重ね続けている

造建築の2階部分からは大きな反応が出る。そういった事例を数多く経験し、土田さんは新たな目標が生まれた。

「電子機器だけでなく、住む人が電磁波の影響をできるだけ受けたくないようにしていく環境づくりをしよう」。壁と床をアースするという、「オールアース住宅」の取り組みへ踏み出した。「オールアース」の概念は家じゅうの全ての電磁波を除去することが目的ではなく、人の身体に影響のない住み方をするという考え方。過敏に電磁波の影響について心配する人も多いが、しっかりと認知していれば怖いものではないと土田さんは話す。

こまめにコンセントを抜いたり家電との距離をおくこと、身体に負担のない状況を維持できるように家電製品の使い方を選ぶことも電磁波と上手に付き合うポイントだと教えてくれた。「まずは家のブレーカーを落としてみてください。それで二晩寝ると、身体が軽く感じてぐっすり眠れる。気分が全然違います」。電磁波の影響をなくすことは、人の健康を約束する要素の一つにすぎない。空気の調節さえもできない化学物質が建材に多用された家



で、電磁波対策したいと希望する人もいる。だが、本当にそれでいいのだろうか。いくら電磁波対策をしても、衣服や食・周りの環境への意識が欠けていけばその対策は無意味なものだ。生活一つひとつに目を向け、それぞれの問題と向き合うことで調和のとれた暮らしに繋がる。「健康を追求するのであればまずシンブルに生きる」と。電磁波も出ているものを出さないようにする。余計に手を加えるのではなく、なるべく自然に近い状態で、何事も負荷のからない生活を送ってほしい。それが土田さんの想いだ。そういった事を多くの人に伝えることは自分一人では難しい。電磁波というものを理解し、説明や測定ができる人材を増やし、電磁波の正しい知識を伝え広めようと考えた。そういった資格は世にないため自らテキストやテストをつくり、「電磁波測定士」を世に輩出しようと試みた。今では、約1300名が電磁波測定士の資格を持ち、そのうちの10名がインストラクターとして全国で講座を行っている。

作用である電磁波の影響を低減させた建物だ。その一角にはオーガニック食材を使ったカフェも併設している。訪れた人が気軽にランチを楽しめる。心地いい空間に触れたことがきっかけでオールアース住宅を申し込んだ人も多いそう。衣・食・住トータルでのライフスタイルづくりの大切さがこのお店に込められている。

土田さんは、7年前にハワイのホノルラマラソンに参加した。日本では味わえない歓びと、ハワイの風を感じて走れたことが、思い出に残る。社員にもこの達成感を味わってもらいたいと思い、毎年一人ずつ参加させている。完走して帰国してきた時の晴れ晴れした表情や一回り成長した姿を見るのが何より嬉しいという。

「無形の価値は、人の信用や商品の価値から生まれる。そこを追求したくなった。大切なものは自分の心で探さないと」

つちだ なおき

1969年福岡県出身。趣味はマラソンとゴルフ。味噌・梅・ゆず・甘酒を混ぜた手作り味噌をこはんやキュウリに付けて食べるのがマイブーム。

株式会社レジナ

電磁波対策にまつわる機器開発・測定・オールアース住宅事業など、多岐に渡る事業展開をおこなう。2013年に、福岡県筑紫野市にオーガニックレストラン&リフォームスタジオ「エコレ福岡」をオープン。Web: <http://www.regina-life.com/>

○ナチュラル・ハーモニーの宅配では「エルマクリーン」を販売予定です。